

高校生こそ起業マインドを！

将来の成功のためには
若い頃の失敗経験が大切

高木 知巳

TOMOMI TAKAGI
たかぎ ともみ
香川大学大学院
地域マネジメント研究科
准教授 MASTER OF BUSINESS ADMINISTRATION
担当: 事業創造論



高 木知巳准教授は、中四国の国立大学では唯一のMBA(経営修士号)コースを持つ香川大学大学院地域マネジメント研究科で、「事業創造論」を教えています。地元香川県出身で、大学卒業後は当時、まだ珍しかったベンチャーキャピタルへ入社。5社の株式上場のサポートを経験した後、欧州ビジネススクールの名門ロンドン・ビジネススクールに入学。卒業後は経営コンサルタントや投資家、事業家を経験するなど、ユニークな経歴の持ち主です。

失敗を経験していないと
リスクを背負う
大きな仕事は
決してできません。



日本人に 起業マインドを

そんな高木准教授の授業は、実際のビジネスを例にディスカッションを行う実践的なもの。様々な会社が直面した経営状況を題材に、自分が経営者だったらどうするかをグループでディスカッション。それだけでは終わらず、後にその企業の経営者を招き、ディスカッションした内容を経営者に投げかけ、さらに議論を深めるといふ白熱した

ものです。経営者の生の声や判断を聞く貴重な機会として、議論は授業後も研究室に場所を移して展開。時には深夜にまで及ぶこともあります。高木准教授は、ビジネススクールの中から実際に事業を始める人が出てきてくれることを心から期待しています。同時に、日本人に起業マインドがもっと浸透していれば、昨今の日本の不況もここまで長引くものにはならなっています。

挑戦を続けること

「日本人にも起業家としての資質を潜在的に持っている人はいます。ただ、育つ環境が整っていません。子供の頃から先回りして周囲が何でもやってみよう。若い頃でも自分で考えて何かをすることが面白いという体感や、それで失敗した経験は将来において挑戦の糧になります。失敗が次の成功に繋がるのです。失敗を恐れすぎると挑戦できなくなりますが、挑戦することを止めると、次の日本

の成長産業は出てきません」と高木准教授は話します。例えば高校生なら文化祭で模擬店を出してみ。仮説を立て、予算を決めて、材料を仕入れて、販売して結果を分析するのも身近な起業体験。身近なところから起業家精神を養えます。若い高校生の皆さんに「失敗してもいい、挑戦しよう」と呼びかける高木准教授。挑戦者たちを、ビジネススクールの内外でサポートしています。

起業家の能力は
かなりの人に潜在的
にあります。適切な
時期に磨かれないと
開花しません。



高木准教授の出身校
London Business Schoolの卒業生証。
世界130カ国で働く同級生3万人が読む本誌で、
高木准教授が日本人卒業生として初めて特集された。
フランス人カメラマンが新宿で撮影。